

## 新型コロナウイルスを蔓延させない高気圧酸素治療方法について

高気圧酸素治療装置は閉鎖空間で治療を行う性質上、感染に対する配慮が重要です。各医療機関において安全に治療ができますよう、実際の治療方法の要点をまとめました。

### 推奨する高気圧酸素治療装置の治療方法

1. **発熱（37.5 度以上）や咳嗽、喀痰排出などの兆候があり新型コロナウイルス感染症の疑いのある方の高気圧酸素治療装置内入室は行わないでください。**
2. **新型コロナウイルス感染症が判明している場合、治療の有益性が勝る場合を除き高気圧酸素治療は行わないでください（完全な消毒方法が確立されていません）。**
3. 推奨：外来患者と入院患者を同時に治療しないこと。また同時でなくとも清掃・消毒なく外来患者と入院患者の治療を一日の間で混在させないこと。第 2 種装置では可能な限り患者間隔をあけること（理想は 1m 以上）。
4. 推奨：治療開始前に医療関係者自身の健康状態も十分チェックし、治療者、被治療者ともに体温表をつけるなど管理すること。
5. 推奨：入室後速やかに患者にマスクを装着、個別換気とし可能であればエアブレイクは外気とすること。使用後のマスクは再利用しない。
6. 推奨：介助者も例外なくマスクを装着すること（N95 マスク）

### 安全な治療方法（例）

- ① 入院患者を午前中に、外来患者を午後に治療するなど患者が混在しない治療スケジュールとし、午後の治療が終了したら必要に応じて清掃、消毒（別紙参照）を行う。
- ② 問診と非接触型体温計などで患者スクリーニングを行い、体調不良者は治療を行わない。特に**発熱（37.5 度以上）や咳嗽、喀痰排出などの症状のある方の高気圧酸素治療装置内入室は行わない（治療前に掲示もしくは書面で患者通達を行う）。**
- ③ **すでに新型コロナウイルス感染症が判明している方の高気圧酸素治療は救命・集中治療目的以外行わない。**
- ④ 入室時に手指消毒もしくは石鹸洗浄による衛生管理を行う。
- ⑤ 感染が疑われる場合、治療終了後に清掃・消毒を行う。方法は国立感染症研究所指針<sup>1</sup>を参考に装備し、消毒（別紙参照）を行う。
- ⑥ 緊急時を除き夜間等不使用時は高気圧酸素治療装置を開放し十分な時間換気を行う。

### 文献

1. 新型コロナウイルス感染症に対する感染管理  
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2484-idsc/9310-2019->

[ncov-01.html](#)). 国立感染症研究所. 2020.

2020年3月20日  
日本高気圧環境・潜水医学会  
代表理事 柳下 和慶  
教育委員会委員長 高木 元